事例No.	2678
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人九州車いすテニス協会

事例区分	地域活性化

タグ	・福祉・介護 ・関係人口 ・観光

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人九州車いすテニス協会

出典

平成30年度ふるさとづくり大賞事例集

団体表彰

特定非営利活動法人九州車いすテニス協会　福岡県飯塚市

観光振興・交流　その他（障がい者の自立支援）

概　要

当時日本で唯一であった脊髄損傷専門の病院がある飯塚市において、車いすテニスを日本でいち早くリハビリに取り入れ、昭和60年に「飯塚国際車いすテニス大会」を開始した。

「イイヅカ方式」と呼ばれる、自治体や企業、各種団体、学校、そして、市民による延べ2,000人規模のボランティアの支えにより本年度で34回目の開催を迎えており、アジアでは最高峰の国際車いすテニス大会に位置付けられたほか、障がい者スポーツ大会で初めてとなる天皇杯・皇后杯を下賜いただく大会に成長している。



【優勝・準優勝選手と】

評価された点

・「イイヅカ方式」と呼ばれる延べ2,000人規模の市民ボランティアが運営を支え、そのホスピタリティーが世界的にも認められているのは高く評価できる。今後の永続的な活動が期待される。
・日本でいち早く車いすでの国際的なテニス大会を開催しており、独自のボランティア方式により運営が行われている。ボランティアも年々増加しており、「イイヅカ方式」は2020年のパラリンピックでのボランティア活動のモデルになるのではないかと考える。また、多くの地元企業や団体から協力を得ており、地域を挙げての取組みである点が評価できる。
・リハビリにとどまらず、障がい者スポーツとして、病院とともに車いすテニスを広め、普及させたことへの貢献は大きい。
・地域の特性を活かし、車いすテニスをきっかけに、地元企業や住民と連携した先進的取組みとして評価できる。



【選手と小学生の交流】



【輸送ボランティアによる選手送迎】